

教皇の訪問

2009年5月14日 アシェル・イントレーター

今週のイスラエル訪問中、教皇はカトリック教会とユダヤ人に関していくつか肯定的な発言をしました。これらの発言の中には、ユダヤ人との和解に関する誓約、ホロコースト否定に反対する立場、反ユダヤ主義に対する非難、そしてイスラム教の長老アル・タミミがイスラエルに対して酷評した時に、それに抗議して退場したことが含まれていました。

残念なことに革新・世俗的なイスラエル報道陣は正統派ユダヤ教徒のラビらと組み、教皇がそれ以上語らなかったことについて厳しく非難しました。どうか、多くの主流派のイスラエル人から、その批判に対する反発が生じ、教皇の訪問によって得られる肯定的な効果を保持することができるようお祈り下さい。

記事

再臨に照準を合わせる

訳注: 原文に使われている **Aligned, Alignment** は、和訳では文脈に合わせて訳語を替えています。「照準を合わせる」「合わせる」「位置づけ」「連携する」など。

現在、世界中のキリストの体において、正しく「合わせること」について多く語られています。私はそれに同意します。私たちは霊、魂、肉において正しく合わせなければなりません。私たちは神のご意思に合わせなければなりません。

私たちはまた、イエシュア(イエス)の再臨に合わせなければなりません。合わせるということは「準備が整っている」ことです。私たちは再臨が起こる**前に**、それに合わせなければなりません。

エリヤが来て、すべてのことを立て直すのです。(マタイ 17:11)

この御国の福音は全世界に宣べ伝えられて、すべての国民にあかしされ、それから、終わりの日が来ます。(マタイ 24:14)

花嫁はその用意ができたのだから。(黙示録 19:7)

キリストの体が再臨に対して準備を整えるためには、イスラエルのメシアニック・ジューの体と正しく連携しなければなりません。

なぜかと言いますと、イエシュアはエルサレムに戻って来られるからです。主は単に地理的な場所に戻って来るだけでなく、その地に住む人々の元へ戻ってくるからです。それゆえ主は言われま

した。「祝福あれ、主の御名によって来られる方に。」とあなたがたが言う時まで、あなたがたは今後決してわたしを見ることはありません。」(マタイ 23:39)

エルサレムはダビデ王とその子孫に与えられた街です。イエシュアご自身がダビデの子孫なので、主はエルサレムから統治されます。イエシュアが、エルサレムの人々が主を受け入れない限り主は戻って来ないと宣告したのは、神がダビデと契約を交わしたことに基づくものです。

II サムエル 7:12, 16「あなたの日数が満ち、あなたがあなたの先祖たちとともに眠るとき、わたしは、あなたの身から出る世継ぎの子を、あなたのあとに起こし、彼の王国を確立させる。あなたの家とあなたの王国とは、わたしの前にとこしえまでも続き、あなたの王座はとこしえまでも堅く立つ。」

神はダビデに、彼の種からメシアが起こされ、そのメシアがエルサレムから世界を統治するということを約束しました。マタイ 23 章は II サムエル 7 章を基盤としています。イエシュアはダビデの契約と深く関与しており、ダビデとその種は決して断たれることはありません。

再臨が近いため、神はキリストの体を正しくメシアニックの集団と正しく連携させようとしておられるのです。それはまた、メシアニックの集団が正しく諸国の教会や世界宣教における主の戦略に正しく合わせようとする神のご意志だからです。これらの理由により、私たちの内の何名かは来月香港で開催される Call2All(訳注:「すべての人への召命」)に参加します。

今週私たちはイラク、トルコ、サウジアラビア、そしてパレスチナ地区で福音を伝えているアラブ人クリスチャンと共にすばらしい時を持ちました。私たちは出来る限りにおいて彼らのために祈り、支援しています。彼らができることは私たちにはできませんが、彼らと正しく連携していきたいと思っています。

ラッツィンガー枢機卿(現教皇ベネディクト 16 世)が「第二エルサレム会議に向けて実行委員会」のメシアニック・ジュー指導者と会った時、彼は言いました。「もしあなたがたが、(訳者加:イエスを信じるユダヤ人)と言うその通りの方々であるならば、私が思う以上に再臨は近いに違いない。」

契約に忠実であることは正しい位置づけを定義します。契約は位置づけの道筋を与えます。私はイエシュアと契約を結んでいますので、私は主を信じるすべての人に対して契約的な態度を取りたいと思います。私はたった一人の女性、私の妻ベティと結婚の契約を交わしています。この契約は、私と他の女性との位置づけを定義しているのです。

私たちはすべての人と直接契約関係に入ることはできません。「好みの合う者同士はつながる(訳注:「同気相求む」が一番近いことわざ)」。私たちは使徒的、預言的、契約的、カリスマ派、リバイバリストそして回復主義者である人々と自然につながる傾向があります。それは、キリストの体全体か

から見れば一部分かもしれませんが、私たちはその「潮流」の一部にあるのです。霊に満たされた教会が単にイスラエルの政治家やラビたちとつながるだけでは不十分なのです。

アメリカ・メリーランド州にあるエル・シャダイ・Congregational (1980年代私とベティはこのCongregationalの初代指導者でした)の現在の指導者は「イエシュアを中心にし、ヘブライ語を話し、使徒的な意識を持ち、聖霊に満たされている、イスラエル在住のメシアニック・ジューの残りの人々(レムナント)」とつながることは重要であると会衆に対して再認識するように促しています。私たちはそのCongregationalに対して何の法的権威を持っていませんが、彼らは、この「位置づけ」が、彼らが何者であるかというアイデンティティの一部であると理解しているのです。

神は常にご自身の契約に忠実です。それにはダビデ契約やレビ的契約が含まれます。マタイとルカの福音書の冒頭に、ヨセフ(イエシュアの義理の父)はダビデの子孫であることや、洗礼者ヨハネはアロンの子孫であることが述べられており、それを理解するのは重要です。契約的な見方をすると、ヨセフはイスラエルの正当な王であり、ヨハネは彼の世代の大祭司なのです。

再臨の前、エルサレムにいる、第一世紀の時のようにイエシュアを信じるアロンの子孫の残りの人々(レムナント)が現れます。(使徒 6:7)

私のCongregationalには12名ほどのアロンやレビの子孫たちがいます。毎週私たちは彼らに、彼らが手を広げて**民数記 6:24-26**にあるアロンの祝祷をして会衆を祝福してもらうようにしています。今週アラブの宣教者と会った時、私たちのメンバーの一人でアロンの子孫が、彼らに対してヘブライ語で祈り、祝福をしました。(そして、彼らに対して異言で歌いました。)

世界中の真の信者たちは祈り、賛美、そして預言をすることによって霊的な司祭の務めを果たします。どうか、父と御子が一つであるように、キリストの体が一つとなるようにと**ヨハネ 17章**にあるイエシュアの大祭司としての執り成しを共に行いましょう。